

意思疎通のとりづらい終末期がん患者に対する 家族の関わりの研究

長谷川 素子*

サマリー

本研究の目的は、意思疎通のとりづらい終末期がん患者に対する家族の関わりの程度、行った関わりに対する家族の評価を明らかにすることである。「十分に行った/行った」と回答した対象者が多かったのは、「面会に行く」「患者に声をかける」「患者と一緒にいる」「患者の身振りや表情から、患者の意思や気持ちを汲み取ろうとする」「患者に触れる」

だった。そのうち、「面会に行く」「患者に声をかける」「患者と一緒にいる」「患者に触れる」は、80%以上の対象者が行って「よかった」と評価していた。先行研究で推奨されている関わり以外に、「患者の身振りや表情から、患者の意思や気持ちを汲み取ろうとする」などの、多くの対象者が「よかった」と評価する関わりが明らかになった。

目的

多くの終末期がん患者の家族は、病状の悪化により意思疎通がとりづらくなっていく患者と関わる経験をするが、患者と会話ができなくなるのは家族にとってつらいことである¹⁾。看取り期の患者に対する望ましいケアには、患者への接し方やケアの仕方を医療者が家族にコーチすることが含まれており、患者への関わりを通じて家族のつらさが軽減する可能性が示唆されている²⁾。そのため、意思疎通のとりづらい終末期がん患者に対する家族の関わりを支援することが重要であるが、患者に対して家族がよく行う関わり、行った関わり

に対する家族の評価の実態は明らかではない。

本研究の目的は、①意思疎通がとりづらい終末期がん患者に対し家族の行った関わりの程度、②行った関わりに対する家族の評価、について明らかにすることである。なお、終末期がん患者の意思疎通がとりづらい状態を患者の意思表示を家族が明確に確認できない状態と捉え、次の3つの状態と定義する。①辻褄が合わない発言をするなど、会話がかみ合わない状態、②眠っている時間が長く、目を覚まして、うなずく、ほほえむ、目を合わせる程度で、会話が困難な状態、③声をかけてもずっと眠っている状態、である。

*東北大学大学院 教育学研究科 (研究代表者)

結果

質問紙を送付した1,028名のうち、650名から回答を得た（回収率63.2%）。質問紙への回答承諾が得られた549名（回答承諾率53.4%）のうち、意思疎通のとりづらいつら期間に関する全3項目が無回答であった12名、全3項目「該当せず」と回答した116名、3項目中2項目が「該当せず」、残り1項目が無回答の1名を除き、420名を分析対象とした（有効回答率40.8%）。

1) 意思疎通がとりづらいつら終末期がん患者に 行った家族の関わり の程度 (図1)

「十分に行った/行った」と回答した対象者が多い順に、「面会に行く(96.3%)」「患者に声をかける(85.9%)」「患者と一緒にいる(85.5%)」「患者の身振りや表情から、患者の意思や気持ちを汲み取ろうとする(79.4%)」「患者に触れる(76.3%)」であった。その一方「患者に思い出話を語りかける(47.6%)」「医療者やほかの家族と話をする際に、患者にも話題を向ける(54.9%)」「患者に気持ちを伝える(56.5%)」「病室の環境を患者にとって心地よくする(57.7%)」「患者の身の回りの世話をする(57.7%)」と回答した対象者は少なかった。

2) 意思疎通がとりづらいつら終末期がん患者に 行った関わりへの家族の評価 (図2)

「よかった」と回答した対象者が多い順に、「面会に行く(95.6%)」「患者と一緒にいる(87.0%)」「患者に触れる(86.6%)」「患者に声をかける(84.0%)」「患者の身の回りの世話をする(77.2%)」「病室の環境を患者にとって心地よくする(76.4%)」「患者の身振りや表情から、患者の意思や気持ちを汲み取ろうとする(75.6%)」「医療者やほかの家族と話をする際に、患者にも話題を向ける(72.0%)」「患者が辻褄(つじつま)の合わないことを言っても、それに合わせて話を(71.2%)」「患者が答えられるよう質問の仕方を工夫する(71.1%)」「患者に気持ちを伝える

(70.2%)」であった。

考察

本研究により、意思疎通のとりづらいつら終末期がん患者に対する家族の関わり の程度、行った関わりに対する家族の評価が明らかになった。

「十分に行った/行った」と回答した対象者が多かった「面会に行く」「患者に声をかける」「患者と一緒にいる」「患者の身振りや表情から、患者の意思や気持ちを汲み取ろうとする」「患者に触れる」の5項目のうち、「患者の身振りや表情から、患者の意思や気持ちを汲み取ろうとする」以外の4項目は、看取りのパフレット内で家族ができることとして挙げられた項目と一致した³⁾。これらの4項目は、行って「よかった」と評価した対象者は80%以上と高い値を示しており、医療者が家族に推奨する関わりとして優先度が高いといえる。

終末期せん妄に対する家族の意味づけとして「したいことや言いたいことを伝えようとしている」と考える家族が多かったことから⁴⁾、「患者の身振りや表情から、患者の意思や気持ちを汲み取ろうとする」家族が多いという結果は、家族が患者の伝えたいことを言葉以外の反応から汲み取ろうとするためと考えられる。医療者が家族に積極的にモデルを示すことが役立つと考えられる。

「十分に行った/行った」と回答した対象者が少なかった「患者に思い出話を語りかける」「医療者やほかの家族と話をする際に、患者にも話題を向ける」「患者に気持ちを伝える」「病室の環境を患者にとって心地よくする」「患者の身の回りの世話をする」の5項目のうち、「患者に思い出話を語りかける」以外の4項目は、行って「よかった」と評価した対象者が70%以上と高い値を示していた。また、「病室の環境を患者にとって心地よくする」「患者の身の回りの世話をする」は、看取りのパフレット内で家族ができることとして挙げられた項目と一致した³⁾。

「患者の身の回りの世話をする」は、終末期がん患者の家族が患者の死を前提として行いたいこ

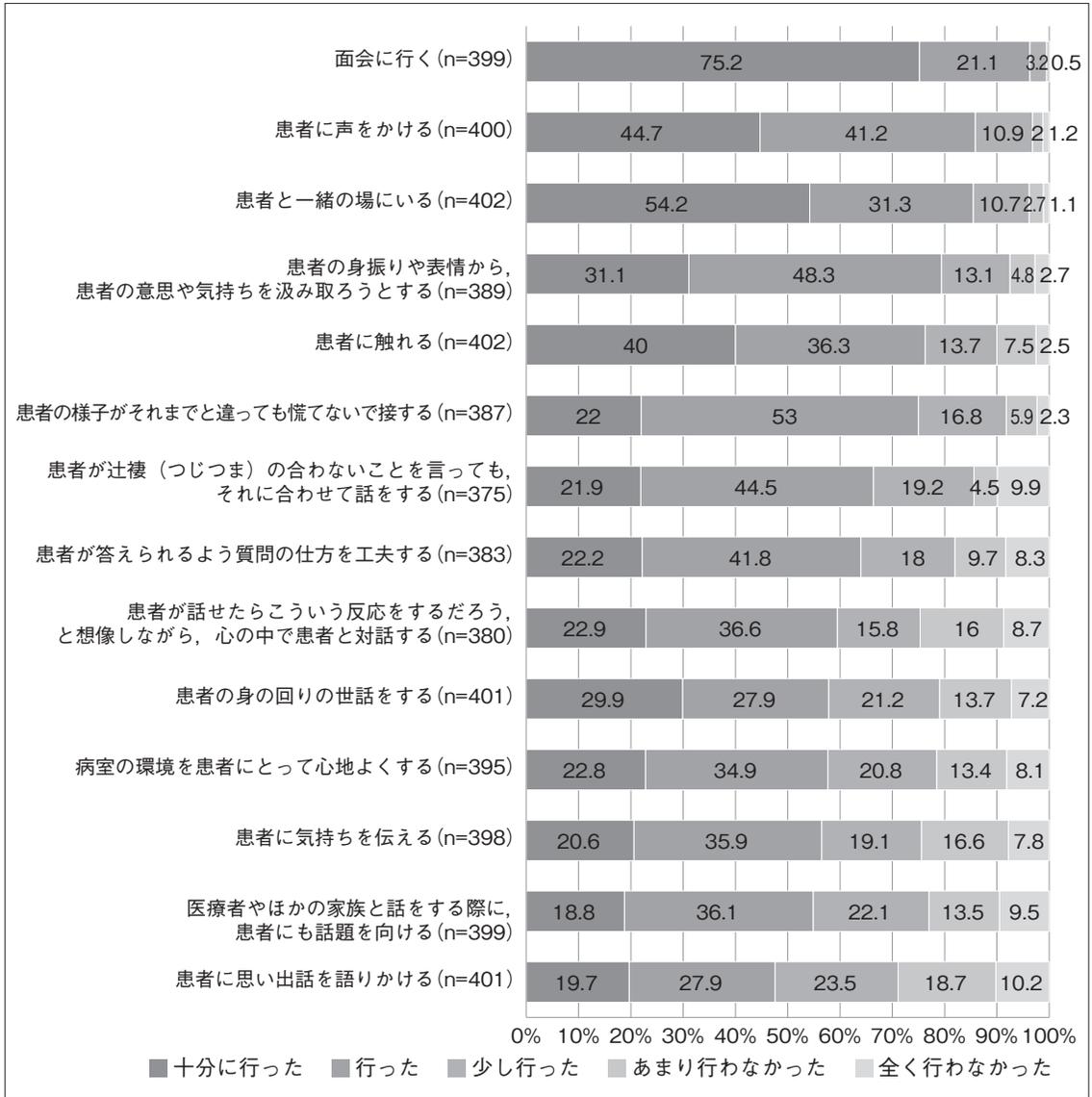


図1 家族が患者に対して行った関わりの程度

との1つであるが、行いたいことの全項目中における優先順位は低かったため⁵⁾、家族の行った関わりの程度が低かった可能性が考えられる。

終末期がん患者と家族間の思いを言葉で伝えるように支援することが、患者と家族との良好な関係性やケアの満足度に繋がる可能性が報告されているが⁶⁾、患者に思いを伝えることは容易なことではないため、「患者に気持ちを伝える」は、家

族の行った関わりの程度が低かった可能性が考えられる。

患者に対し行った関わりの程度が少ないが、行って「よかった」と評価する対象者が多い関わりは、関わりを妨げている要因を把握しながら、医療者が家族に関わりを促していくことが役立つと考えられる。

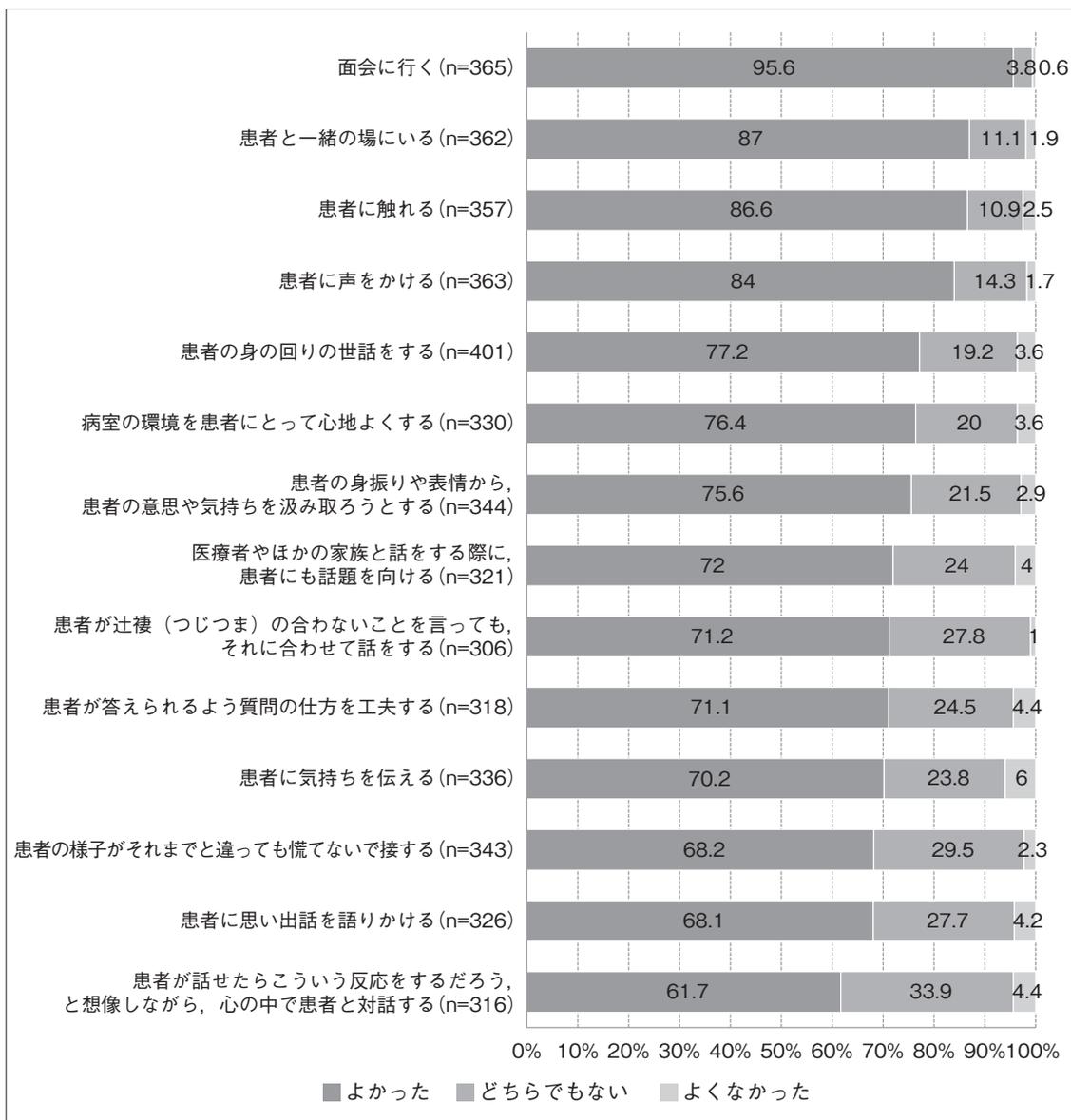


図2 行った関わりに対する家族の評価

まとめ

意思疎通の取りづらい終末期がん患者に対し、多くの家族が、「面会に行く」「患者に声をかける」「患者と一緒に場にいる」「患者の身振りや表情から、患者の意思や気持ちを汲み取ろうとする」「患者に触れる」を行っており、これらの関

わりを行って「よかった」と評価していることから、医療者が家族に推奨する関わりとして優先度が高いといえる。

文献

- 1) Morita T, Ikenaga M, Adachi I, et al. Family experience with palliative sedation therapy for

- terminally ill cancer patients. *J Pain Symptom Manage* 2004 ; 28 (6) : 557-565.
- 2) Shinjo T, Morita T, Hirai K, et al. Care for imminently dying cancer patients : family members' experiences and recommendations. *J Clin Oncol* 2010 ; 28 (1) : 142-148.
 - 3) 山本亮, 大谷弘行, 松尾直樹, 他. 看取りの時期が近づいた患者の家族への説明に用いる『看取りのパフレット』の有用性 : 多施設研究. *Palliative Care Res* 2012 ; 7 (2) : 192-201.
 - 4) Morita T, Akechi T, Ikenaga M, et al. Terminal delirium : recommendations from bereaved families' experiences. *J Pain Symptom Manage* 2007 ; 34 (6) : 579-589.
 - 5) 山下亮子. 終末期がん患者の家族が患者の死を前提として 行いたいことに関する研究. 遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する研究 3. 2016 ; 102-107
 - 6) 中里和弘, 塩崎麻里子, 平井啓, 他. ホスピス・緩和ケア病棟における患者と家族間の思いの言語化を支える家族支援—遺族調査による家族支援と「患者と家族との良好な関係性」および「ケアの全般的満足度」との関連性の検討—. *Palliative Care Res* 2018 ; 13 (3) : 263-271.

〔付帯研究担当者〕

吉田沙蘭 (東北大学大学院 教育学研究科), **三浦智史**
(国立がん研究センター東病院)